

令和3年12月10日（金）

1学年だより

夢の宅配便

1年学年主任
水野 喜代治

陽だまり

朝は、あんなに寒かったのに、上着を脱いで清掃をした。

掃除が終わって、校庭で生徒が楽しそうにボールで遊んでいる。

休憩時間が終わって、教室に生徒が入る。

授業が始まると、校庭はシーンと静まり返って物音ひとつ聞こえてこない。

風のない今日は、木々の葉を揺らすことなく、校庭は写真のように静止している。

窓から冬の日差しが斜めに差し込んでくる。

ポカポカと温かい日差しが心地よい。

ぬくもりが体に広がって、固まっていた気持ちが消えていく。

気持ちが少し楽になって、手のひらを日差しにあてる。

冬なのにこんなに陽は温かいということが実感できる。

本格的な冬を受け止めて春をじっと待つ木々や動物も、この陽のぬくもりを感じて耐えているのだと思った。

人は、自らの知恵で暖房器具を手にした。

いつのまにか、陽だまりの存在を忘れてしまっていないだろうか。

たまには、窓越しに差し込む日差しを感じてみてください。

暖房器具では得ることのできないぬくもりがそこにはあるはずだから。